

キヌサヤエンドウ育成系統「SM-03」の特性

—夏まき年内どり作型—

1. はじめに

本県のキヌサヤエンドウの主要品種は「美笹」で、産地では2莢付きの果房(アベック莢)収穫を行っています。しかし、「美笹」は果梗に小ほう(ハカマ)が発生しやすく、出荷時にこれを除去する必要があります。このため、当センターでは生産現場からの要望が強い、小ほう発生が少ない多収品種の育成に取り組んできました。今回は、「夏まき年内どり作型」の結果を紹介します。

2. 試験方法

育成系統「SM-03」、対照品種「美笹」及び「みささ2000」を供試し、2009年9月4日にセンター内の露地ほ場に播種しました。栽植密度はうね幅160cm、株間20cm、1条植え、1穴5粒播種で栽培しました。

3. 試験結果

(1) 開花始めと収穫始め

開花始めは、「SM-03」と「みささ2000」が10月5日とやや早く、「美笹」が10月7日でした。また、初花房節位は、「SM-03」と「みささ2000」がそれぞれ10.6節と10.7節とやや低く、「美笹」が11.3節でした。

収穫始めは、「みささ2000」が10月24日と最も早く、「SM-03」は10月28日、「美笹」は11月11日でした。また、初収穫節位は、「SM-03」と「みささ2000」がそれぞれ13.8節と14.3節とやや低く、「美笹」が18.7節でした(表1)。

品種・系統	開花始め (月/日)	初花房節位 (節)	収穫始め (月/日)	初収穫節位 (節)
SM-03	10/5	10.6	10/28	14.3
美笹	10/7	11.3	11/11	18.7
みささ2000	10/5	10.7	10/24	13.8

(2) 莢の形質

莢の形状や色などの形質は、全供試品種・系統でほぼ同じでした(表2)。

表2 夏まき年内どり作型での供試品種・系統の莢の特性

品種・系統	莢長 (mm)	莢幅 (mm)	莢厚 (mm)	1莢重 (g)
SM-03	63.1	13.5	3.5	1.3
美笹	61.1	13.7	3.4	1.3
みささ2000	60.2	12.9	3.5	1.2

注)調査日:2009年11月19日

(3) 果梗の小ほう発生率

果梗の小ほう発生率は、10月では全供試品種・系統がほぼ同程度でした。しかし、11月では、「美笹」が71.3%、「みささ2000」が71.5%と同程度で高い値であったのに対し、「SM-03」は22.8%と低い値となりました。さらに、「SM-03」の小ほう発生率は11月以降、「美笹」及び「みささ2000」より常に低く推移しました(図1)。

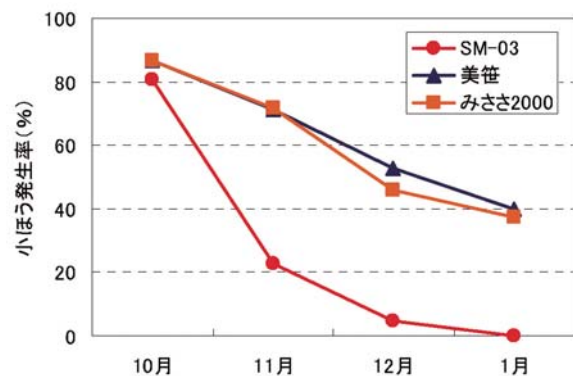


図1 夏まき年内どり作型での小ほう発生率

4. おわりに

以上の結果、「SM-03」は夏まき年内どり作型において、①開花始めと収穫始めが「美笹」よりやや早く、「みささ2000」と同程度であること、②「SM-03」の莢の形質が「美笹」と「みささ2000」とほぼ同じであること、③果梗の小ほうの発生率が「美笹」と「みささ2000」より早期に低下することがわかりました。

現在、「SM-03」の品種登録に向けた調査をしており、今年度中の品種登録申請を予定しています。

(育種部 小谷 泰之)